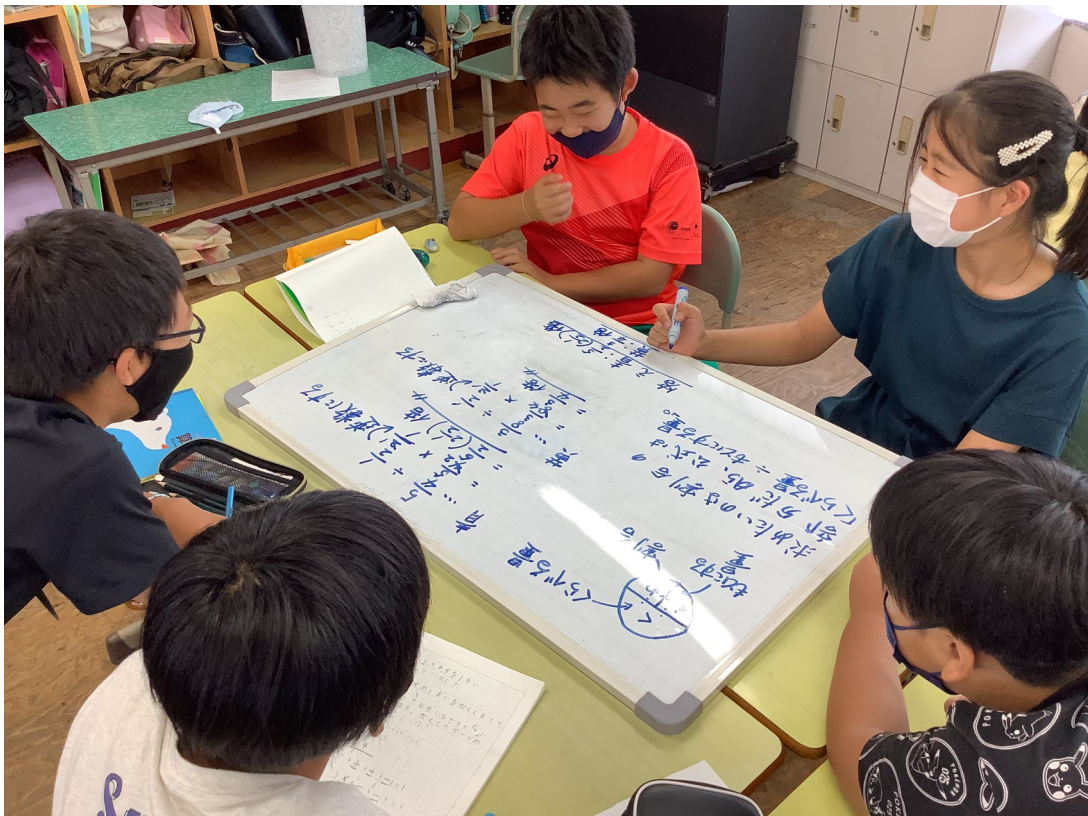


令和元年・2・3・4年度  
令和2・3・4年度

<茅ヶ崎市教育委員会推薦研究指定校>  
<かながわ学びづくり推進地域研究委託校>

もっとやりたい！もっと知りたい！  
～協働的な学びを通じた意欲的に学ぶ児童の育成～



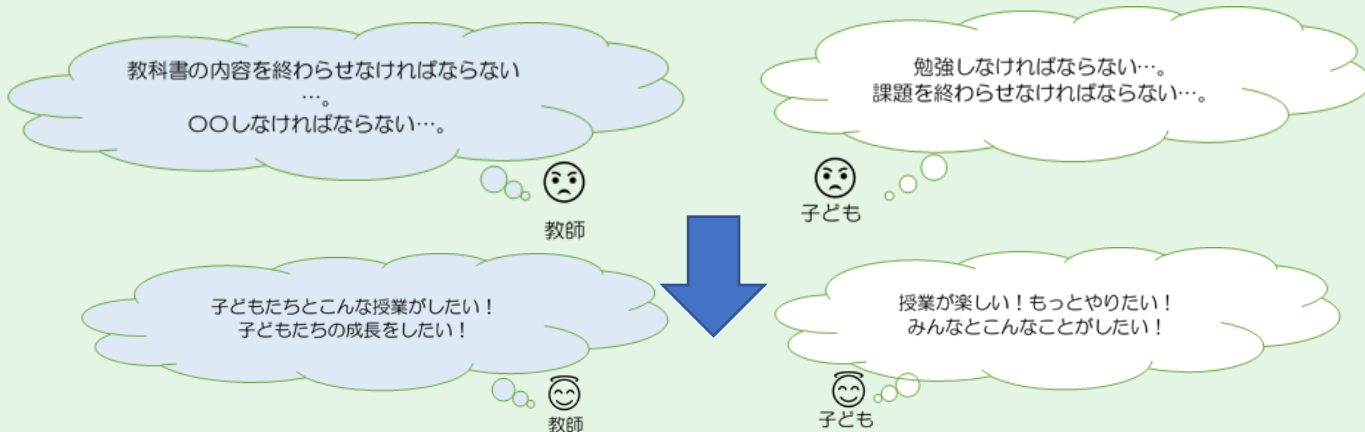
令和4年11月22日（火）

茅ヶ崎市立柳島小学校

# ＜柳島小学校校内研究について＞

## ＜学校教育目標＞ 豊かな心を持ち意欲的にたくましく生きる子

教師としての悩み	柳島小学校の子どもたちの課題
〇〇をやらなければいけないという思い込みに縛られている。 もっと子どもたちを主体とした学習を展開していきたいが、難しい。	「与えられた課題をこなす＝学習」という意識が強い。 個人差がすごく大きい。 どのクラスにも授業に向き合えない子がいる。



教師としてめざすこと	柳島小学校のめざす子どもたちの姿
みんながやりたいと思うことを実現していける柳島小学校にしたい。 子どもたちが意欲的に学ぶ授業をつかっていきたい。	自分から意欲的に学べるようになってほしい。 みんなで学びながら、どんな子も一緒に高めあってほしい。

## ＜柳島小学校研究テーマ＞

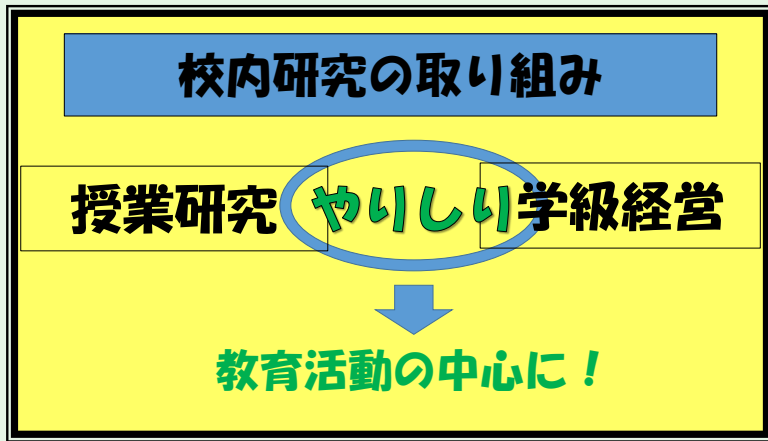
**もっとやりたい！もっと知りたい！**  
～協働的な学びを通じた意欲的に学ぶ児童の育成～

本校は「豊かな心を持ち意欲的にたくましく生きる子」を学校目標として、「やさしくたくましい子ども」の育成と、「夢と活力のある学校づくり」を目指している。

本校の子どもたちは素直でやさしい子が多く、どのクラスでも友達と楽しく笑いあう姿が見られる。一方で、学習に目を向けると、個人差が大きく、与えられた課題をこなすことを学習ととらえる受動的な姿勢が見られるとともに、どのクラスにもなかなか授業に向き合えない子がいるという課題が見られた。

その原因は何なのだろうか。校内研究会を通して、学校という場を見つめ直してみると、「勉強しなければならない」「課題を終わらせなければならない」といった意識が、子どもたちの中に強く根付いていることが分かった。そして、それは私たち教師自身の責任であると考えた。

学校とは、このような場でよいのだろうか。子どもたちにとって、学校は本来、「〇〇をしなければならない場所」ではなく、「他者と関わり合い、豊かに学び合う場所」であるはずだ。やらされるという感覚ではなく、主体性をもって、意欲的に学んでいると感じられる場所にしたい。こんな思いから、「もっとやりたい！もっと知りたい！～協働的な学びを通じた意欲的に学ぶ児童の育成～」を研究テーマに設定し、その実現に向けては、まず、私たち「教師」が「もっとやりたい！もっと知りたい！」と思えるようにすることが不可欠であるとの考えの下、本校の研究をスタートさせた。



## やりしり

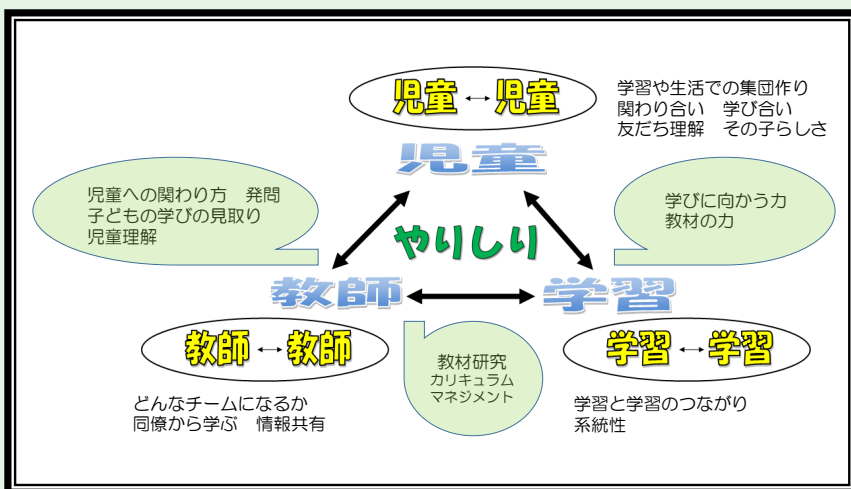
研究テーマを短く表した合言葉。思いや願い、主体性・意欲などを指す。

研究テーマの実現に向けて、「授業研究」と「学級経営」を校内研究の両輪とし、子どもたちの意欲や主体性、教師の願いや思いといった「やりしり」を大切にしながら、研究に取り組んできた。これまでに、教材や発問の工夫、授業における子どもの見取り、教師の子どもたちへの関わり方など、様々なことについて考えてきた。子どもたち・保護者への学習評価の伝え方を含む学習評価の方法についても、「どうしたら子どもたち・保護者にとってよりよいものになるか」を中心に議論を重ね、改善を図ってきた。

そして、学校行事、特別活動、今日までの新型コロナウイルス対応を含むカリキュラム・マネジメントに際しても、「やりしり」を中心に据えてきた。

(詳細は、研究発表クラスルームに掲載していますので、そちらをご覧ください。)

## ＜柳島小学校の授業研究＞



左の図は、これまでの研究の中で見えてきた、授業研究の様々な要素を、図にまとめて表したものである。

### ◎研究教科を一つに限定しない

柳島小学校の授業研究では、それぞれの教科の授業を通して子どもたちを育成していくこと、それぞれのクラスの子どもたちの姿が異なることなどの理由から、研究教科を一つに限定していない。このことにより、教師が「やらなければならない研究ではなく、やりたい研究」として取り組み、授業者それぞれが思い描く「やりしり」を大切にしながら、授業実践、学級経営をしていくことができる。また、授業者の長所を授業で生かすやすくなることにより、子どもたちの「もっとやりたい! もっと知りたい!」という意欲の高まりにつなげていけると考えている。

### ◎学年を中心に研究を進める

学年会や授業研究会で、「めざす子どもたちの姿」を共有しながら、授業計画を立てている。それらをもとに、一人ひとりの授業者が、目の前の子どもたちの姿から「めざす子どもたちの学びの姿」を描き、その実現に向けて授業をデザインし、実践している。

## はじめに

茅ヶ崎市立柳島小学校 赤池 理

本校では、「もっとやりたい！もっと知りたい！～協働的な学びを通じた意欲的に学ぶ児童の育成～」を研究テーマとし、令和元・2・3・4年度に、茅ヶ崎市教育委員会推薦研究校、令和2・3・4年度に、かながわ学びづくり推進地域研究委託校の指定を受け授業研究を進めてまいりました。

児童一人ひとりが「もっとやりたい！もっと知りたい！」と思うことは学習の根幹となり、そこから学びが生まれ、広がります。そして、自ら進んで取り組み、取得したものは、受動的に身につけた一時的な力とは異なり、本当の自分自身の力となります。

本校では、この児童の「やりたい、知りたい」という意欲の向上を追求し研究を進めてまいりました。研究授業における指導案に、その時間の学びの核となる「やりしりポイント」を明記することで、参観者がポイントを意識しながら児童の学習活動を見守ることができました。また、授業後の研究会では、参観者が児童一人ひとりの固有名を出し合いながら授業を振り返ることを大切に協議を行いました。

本研究を通して、児童は自分の考えを持ったうえで、周りの意見を聞き、全体で交流するという流れの中でより積極的に自らの学習にかかわれるようになってきました。すべての児童が、話し合いに参加できたり、学習内容がわかたりする経験を少しずつ積むことで、「もっとやりたい！」「もっと知りたい！」と願う児童が増えてきたように感じます。

また、教職員は児童の学びの姿を介して、自分自身の「やりたい、知りたい」ことについて同僚に気兼ねなく話せるようになり、風通しのよい関係を築きながら、自分たちも楽しんで研究を進めることができています。今後も、児童と共に教職員の成長を期待していきたいと思っております。

結びになりますが、3年間にわたる本校の研究の推進にあたりまして、慶應義塾大学教授藤本和久先生をはじめとした講師の先生方、また、神奈川県及び茅ヶ崎市教育委員会や関係の皆様、貴重なご指導、ご助言をいただきましたことに厚く御礼申し上げます。

## あいさつ

茅ヶ崎市教育委員会教育長 竹内 清

柳島小学校が、茅ヶ崎市教育委員会推薦研究校として研究に取り組み、この度、その実践の成果を発表されます。新型コロナウイルス感染症の影響を受け、令和元年度から令和4年度までの4年間の研究となりました。様々な制約のある中、柳島小学校の先生方が日々の教育活動に創意工夫を凝らし、子どもたちの学びを守りながら、より質の高い学びを目指し研究を継続してこられたことに、心より感謝申し上げます。

柳島小学校は、「豊かな心をもち、意欲的にたくましく生きる子」を学校教育目標に掲げ、「やさしくたくましい子ども」の育成と、「夢と活力のある学校づくり」を目指すための教育実践を進めておられます。

この度は、「もっとやりたい！もっと知りたい！～協働的な学びを通じた意欲的に学ぶ児童の育成～」を研究テーマに、子どもの意欲を喚起し、集団の中でも一人一人の「その子らしさ」が認められる協働的な授業を目指して研究に取り組みされてきました。研究を継続する中で、学校生活のどの場面においても、「あの子がいるからこそ、このクラスだからこそ、生まれた学び」につながっていったと伺っております。

こうした柳島小学校の取組は、「茅ヶ崎市教育基本計画」の基本方針の一つである「未来を拓く力をはぐくむ学校教育の充実」につながるものであり、この度の研究成果が市内の各小・中学校で共有され、今後の茅ヶ崎市の学校教育のさらなる発展につながることを切に願っております。

最後になりましたが、本研究のために御指導・御助言を賜りました、慶應義塾大学教授藤本和久先生に心より感謝申し上げますとともに、本研究を推進していただきました校長先生をはじめ、教職員並びに御協力いただきました関係者、地域や保護者の皆様に厚く御礼申し上げます。

今後も、柳島小学校の教育活動が、益々充実し発展されることを祈念いたしまして、あいさつのことばといたします。

## ＜ みんなで行う授業公開 ＞

R4年度 提案授業・学年研究授業 スケジュール (藤本先生 来校日)												
	4月11日(月)	5月11日(水)	6月8日(水)	6月20日(月)	9月26日(月)	10月17日(月)	11月2日(水)	11月22日(水)	3月3日(金)			
学年研究授業	2時間目	各学年を見て回っていただく	5年 国語	6年 社会	5年 理科	2年 国語	3年 社会	6年 算数		研究発表会	校研協	
			高橋	遠藤	北村	卯瀬	里山	鶴田			校研協	
	3時間目	各学年を見て回っていただく	4年 算数	5年 外国語	1年 国語	ひだまり 生活総合	4年 算数	5年 音楽			校研協	
			小柳	椋岸	豊田	山本	長田	佐藤			校研協	
4時間目	6年 国語	6年 国語	3年 国語	6年 理科	1年 国語	2年 算数	6年 算数		校研協			
	投票者 鶴田	投票者 鶴田	投票者 米本	投票者 藤満	投票者 大野	投票者 卯瀬	投票者 浅谷		校研協			
職員参観	5時間目	6年 国語	3年 外国語	4年 国語	2年 国語	5年 理科	1年 国語	6年 算数			校研協	
		投票者 浅谷	投票者 中島	投票者 渋谷	投票者 土屋	投票者 北村	投票者 部瀬	投票者 日岐			校研協	
放課後	校内研究全体会	研究協議会	研究協議会	研究協議会	研究協議会	研究協議会	研究協議会	研究協議会	研究協議会		校内研究全体会	



### ＜提案授業＞

各学年、年1回ずつ実施する。全員が参観し、研究協議会を行う。

### ＜学年研究授業＞

2時間目～4時間目に授業公開する。各学年、年2～3回ずつ実施。学年ごとに藤本先生に参観していただき、振り返りを行う。

⇒ 全授業者が1年に1回は、藤本先生に参観していただく。

### ＜日常的な授業公開＞

積極的に授業公開を実施している。放課後、自主的に協議会を実施する。

## ＜ 授業者がやってよかったと思える授業研究を目指して ＞

### ＜授業者から学ぼう 授業者へ返そう＞

授業者のやりしり（思いや提案）から、よいところを学ぶ。授業者に寄り添い、みんなが見取ったことを授業者に返し、授業者が「やってよかった！」と思えるような授業研究を目指す。

### ＜みんなが本音で安心して話せる研究協議会に＞

経験を問わず、それぞれが感じたこと、知りたいことを出し合って、みんなで学べる場を目指す。

### ＜授業参観のポイント＞

- 授業者が指導案で提示する「やりしりポイント」を意識しながら授業を参観する。
- 子どもたち一人ひとりがどのように学んでいるかに着目する。
- 何が子どもたちの学びを促進したのか（教師の働きかけ・友だちの関わり・友だちの意見・教材・場づくりなど）を見取る。
- 授業の中で、どのような子どもたちのつながりが起きていたのかを見取る。

## やりしりポイント

授業者が考える子どもの学びを促進させるしかけ。教材の工夫・展開・場づくり・関わり方などを指す。



## < 藤本先生との授業研究で見えてきたこと >

### < 固有名で授業が語れるような授業を >

「できたか、できなかったか」に着目するのではなく、「その子らしさ」が受け入れられるような授業を目指していく。「あの子がいたからこそ」生まれた学び。「このクラスだからこそ」生まれた学び。それらに着目しながら授業を行っていく。そして、エピソードを交えながら固有名で授業を振り返ることで、「その子らしさを見逃さない」教師の見る目を高めていく。

### < 授業の中で教師・子どもたちの声がどのように受け取られるのか >

教師の声は、子どもたちにどのように届いているのか。

子どもたちの声を、教師はどのように受け取っているのか。

子どもたち一人ひとりの声は、友だちにどのように受け取られているのか。

### < 授業の中でのつながり >

授業の中で「問い」が重視されるが、授業では「問いではないところ」で子どもたちの「つながり」が生まれている。授業者は「問いに対して論理的に考えられているか」や「どれだけ理解しているか」だけで「つながり」を考えるのではなく、子どもたちの個性やクラスの中での関係性を見定めていく必要がある。また、授業者は「発問」を工夫することに力を入れてきた。それに加えて「子どもたちの中に生まれる問い」にも目を向けることで、さらに学びが活性化されていく。

< 共同研究者 慶應義塾大学教授 藤本和久先生の講演より >

## < これまでの研究を振り返って >

教師として得られた研究成果	研究を通して見られた子どもたちの変容
子どもたち、教師の「やりしり」を尊重しながら、授業について前向きに考え合えるようになった。	「その子らしさ」を認め合い、友だちと考えを出し合いながら、授業を楽しむ姿が見られるようになった。
子どもたちを中心に据えた授業や教育活動を展開できるようになった。	一人ひとりが自分の力を出して問題解決をしたり、助け合いながら学習理解を深めたりする経験を積むことができた。

茅ヶ崎市教育委員会推薦研究校の指定は、令和元年度～4年度の4年間であるが、本校ではそれ以前から「もっとやりたい！もっと知りたい！」をテーマに、研究に取り組んできた。ありがたいことに、共同研究者として藤本和久先生には、テーマを設定した当初より、今日までご指導いただいている。

研究協議会の中で、いつも藤本先生はその時々での授業者の状況を理解し、その思いに寄り添いながら、授業の中で起こった事実をもとに、私たち教師に「学びの種」を示してくださった。その「学びの種」をもとに、子ども理解について議論したり、学級経営や授業づくりの悩みを共有したりすることができた。そして、研究協議会を終えるたびに、新たな課題や目指すべき方向性が見え、「明日からまた頑張ろう！」という気持ちになることができた。

このような積み重ねから、互いに授業を見合える風土、授業についての質問やアドバイスを気軽にし合える職員室の雰囲気、経験に関わらず、それぞれの授業の見取りを共有し合える協議会、そして、子どもたちを中心に据えた授業や教育活動が生まれている。どれも当たり前のことではあるが、実現するのは容易なことではなく、とても貴重な本校の研究成果だと考えている。

私たち教師が、子どもたちに何かをさせる授業ではなく、子どもたちが主体性をもって、意欲的に学ぶことを大切にし、子どもたちを中心に据えた授業や教育活動を展開できるようになったことによって、子どもたちが一人ひとりの「その子らしさ」を認め合い、友だちと考えを出し合いながら、授業を楽しむ姿が見られるようになった。そして、一人ひとりが自分の力を出して問題解決をしたり、助け合いながら学習理解を深めたりする経験を積むことができた。これは、今後も子どもたちが意欲的に学びに向かうことにつながる貴重な経験である。

毎年4月に新しいクラスになるたびに、環境や人間関係が変わり、同じ子どもたちでも、授業や生活の中で見せる姿は大きく変化する。そして、彼らの成長は、学年が上がるにつれて、積み木のように積み上がっていくというような単純なものではない。だからこそ、彼らと向き合う教師一人ひとりが、目の前の子どもたちの姿を基に、授業や学級経営を行っていくことが必要となる。

本校が取り組んできた研究はこれからも続いていくものである。これからも子どもたちと共に、「もっとやりたい！もっと知りたい！」と思えるような学びを作り上げていきたい。